

作物名：大豆

病害虫名：ジャガイモヒゲナガアブラムシ（学名：*Aulacorthum solani*）



写真1 成虫(有翅虫)



写真2 成虫(無翅虫)と食害痕(黄変部分)



写真3 多発時の食害痕(黄変部分)

1 被害状況

(1) 被害の特徴

- ダイズの生育後期に多発する。本県では、例年8月下旬から9月上旬に発生密度がピークに達する。
- 吸汁されると葉に黄色い点々の吸汁痕が見られ、早期落葉を引き起こして収量や品質に影響を及ぼす。
- ダイズわい化病を媒介する。わい化病多発地帯では、感染期間の6～7月に本種の発生量が少なくても発病率が高い。
- わい化病にかかると大豆は全体に萎縮したり、葉が縮んだりする。収穫期になっても落葉せずに莖葉に緑色が残ることが多い。

(2) 虫の特徴

- ダイズの発芽直後から、葉裏や未展開葉に寄生が認められる。体色は黄～緑色、無翅成虫の体長は2～2.5mm。触角は体長より長く、角状管は体色と同色で末端は黒い。
- ダイズアブラムシは本種よりも小さく、触角は体長よりも短く角状管は暗色。

2 生態

- ギシギシ類、クローバ類で卵越冬する。
- 春早く孵化した無翅虫(幹母)から生まれた有翅虫は、ダイズに発芽直後から飛来する。この有翅虫は子虫を産み無翅虫となる。ダイズ上で増えるのは無翅虫で、秋になると有翅虫が現われ、越冬植物に移動する。
- わい化病発生地帯のクローバ類は、大豆わい化病ウイルスを保毒している。
- 生育期間は幼虫7日(25℃)～14日(15℃)、成虫15～30日で40～60頭の子虫を産む。

3 防除方法

- 播種時の粒剤溝施用あるいは、発芽後～生育初期に、薬剤を莖葉散布する。
- 生育後期に多発する恐れがある場合は、発生密度がピークに達する前に薬剤散布する。

4 出典

(1) 参考文献

- 原色病害虫診断防除編1（農文協）
- 病害虫防除・資材編1（農文協）

(2) 写真

- 宮城県病害虫防除所撮影